

中学校音楽科における 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実



個別最適な学び

生徒一人一人が、音や音楽、音楽文化との関わり方を自ら選択、調整をしながら、音楽的な見方・考え方を働かせ、資質・能力を身に付けていく学び

「個別最適な学び」として、以下の個性*は、相互に関連しながら学びの中に表れると考えます。

♪ 感じ方の個性

…音楽に対する感性の違い

♪ 見方・考え方の個性

…音楽的な見方・考え方の違い

♪ 表現の個性

…音楽表現の創意工夫の違い

♪ 技能の個性

…技能の習得状況や習得過程の違い



協働的な学び

生徒一人一人が、多様な他者との関わりの中で、音楽的な見方・考え方を働かせ、学びを広げ深めていくこと

「協働的な学び」として、以下の具体が考えられます。

♪ 感じ方の交流・共有

…音楽に対する感性や感じ方を共有し、多様な意味に気付く

♪ 見方・考え方の交流・共有

…音楽的な見方・考え方を働かせ、学びを広げたり深めたりする

♪ 表現の共有・協働

…音楽表現の創意工夫を基に、共に創り上げる

♪ 技能の共有・協働

…互いに聴き合いながら、技能を習得し、高める

これらのように、様々な学び方を提供することで、生徒が自分に合った学び方や他者と関わる学び方などを選択できるようにします。

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を図るためには…題材のデザインがポイント！

音楽的な見方・考え方を働かせながら、感じ方や見方・考え方、表現などを捉え直し、更新していく学びになるように題材をデザインすることがポイントです。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の双方の学びの目的を明確にしながら往還することができるように題材をデザインすることで、生徒は多様な他者との関わりを通して、自分の感じ方や見方・考え方、表現などを捉え直し、学びを広げ深めることができます。

このように題材をデザインしながら授業づくりを行うことで、中学校音楽科で目指す資質・能力の育成につなげていきます。

* 個性…「個別最適な学び」の考え方を踏まえ、音楽科の特性である感性や表現の多様性に着目して、本研究において整理した概念のこと